

令和7年度第1回 東京都北区いのち支えるセーフティネット協議会 議事要旨	
日 時	令和7年6月12日（木）午後2時～午後4時03分
場 所	北とぴあ 15階 ペガサスホール
出席者	■委員出席者（委員22名うち代理出席3名） 竹島 正 委員長 碓井 亘 副委員長 明 英彦 委員 石井 綾華 委員 千葉 清貴 委員（藤森 雅之 委員代理） 上田 文子 委員 大橋 委員（佐川 慎一郎 委員代理） 岡村 聡 委員 奥西 史郎 委員 河奈 正道 委員 小池 一博 委員 佐藤 真理子 委員 佐藤 修 委員（河田 康尚 委員代理） 田代 吏 委員 関口 久子 委員 名取 秀康 委員 西村 由紀 委員 畠中 俊明 委員 原田 英孝 委員 鮎田 栄治 委員 三宅 康史 委員 吉田 睦子 委員 ■欠席者（1名） 山内 貴史 委員
議 題	1 令和7年度自殺予防対策における取り組みについて 2 ゲートキーパー研修・養成研修について 3 「つなぐシート」導入に向けて
配付資料	● 次第 ● 令和7年度第1回東京都北区いのち支えるセーフティネット協議会 （参考資料） ・北区いのち支えるセーフティネット協議会委員名簿

	・北区いのち支えるセーフティネット協議会理事者名簿 ・席次表
要 旨	
開 会	・健康部長挨拶 ・事務局から新委員等の紹介、配付資料の確認
議題 1	・事務局から、資料に基づき、説明後、質疑
議題 2	・事務局から、資料に基づき、説明後、質疑
議題 3	・事務局から、資料に基づき、説明後、質疑
質疑等	■ゲートキーパー研修・養成研修について ・ゲートキーパー研修についての説明 まず支える側がセルフケアを学び、自分自身の異変に気づけるようになることを基盤に、ゲートキーパーとしてのスキルを習得してもらう。その後、実生活で活かしているかをフォローアップしながら、日常の相談対応を法人全体でバックアップし、北区の方々に寄り添った支援を進めていく。 ・ゲートキーパー養成研修の構造（基礎編・応用編・フォローアップ）についての確認 ・「ゲートキーパー」という言葉は、日本では、自殺対策基本法制定時から国民全体への啓発的役割としても広く使われてきた。しかし、啓発的役割を含めると、本来の目的が拡散して、結果として取り組みが停滞していく可能性もあるため、関係者の協力とフィードバックを得て、軌道修正しつつ進めていくことが重要である。 ■「つなぐシート」導入に向けて ・相談窓口一覧がホームページに掲載されているが、紙媒体での配布はあるか。 ・相談者を適切な窓口につなげる際に、職員の「つなぐ」意識や具体的な対応方法の習得が不可欠である。 ・相談窓口一覧の扱いについては配布ではなく、必要な方が自由に持ち帰る形になっているか。 ・相談窓口では、一つの問題だけの対応は可能だが、精神的・知的な問題や多重的な課題が絡むと、解決が難しくなり、連携が必要になる。ただ単に問題を他部署につなぐだけでなく、複数の支援者で情報を共有しながら連携を深めることが重要である。 ・「つなぐ」シートを活用して、困難の内容を具体的に共有し、ケースごとに必要な対応を理解・連携できる仕組みを整える工夫が必要である。 ・「つなぐシート」は、部署間の組み合わせが多数存在するため、すべての部署を対象に一度に進めるのは難しい。まずは部署を絞り、具

体的なかたちで試行して課題を整理し、その結果を基に徐々に広げていく方法が合理的である。一度に広げるのではなく、課題を見出して修正を加えながら進めるプロセスが重要と考える。

- ・学校現場では養護教諭などが子どものケアに関わる課題が多く、具体的な取り組みについて意見を伺いたい。

- ・自傷行為をする生徒への対応では、学業や家庭など学校で介入が難しい問題を抱える場合もあり、外部の支援機関と連携してサポートしてきた。学校内ではスクールカウンセラーを活用し、まず小さな悩みから取り組み、必要に応じて支援を広げる形をとっている。これらの活動を通じてゲートキーパーとしての役割を果たし、今後も子どもの未来を支える取り組みを続けたいと考えている。

■意見交換

- ・自殺者や自殺死亡率のデータは亡くなった人のみを対象としており、未遂者の数が含まれていないため、全体像を把握するには不十分ではないか。

- ・今年も行われるゲートキーパーの養成研修について、昨年の実施状況や定員に対する受講者数といった具体的な実績があれば教えていただきたい。

- ・母の介護を通じて「死にたい」という気持ちに寄り添う重要性を感じ、ゲートキーパーの役割とは相手に寄り添いながら思い出や気持ちを尊重することだと考えた。

- ・高齢者の自殺が多い背景には、自ら相談しない方の孤立があると考えられ、定期訪問を希望しない高齢者を地域で掘り起こし、状況を確認する仕組みが必要である。これにより、ゲートキーパー活動を強化し、高齢者の安全を守れると考えられる。

- ・孤独リスクの高い高齢者には定期的に声掛けを行い、サロン活動など地域との関わりを促す必要を強く感じた。

- ・ヤングケアラー支援が地域サービスと結びつき、現場での地道な取り組みが大きくなつながら生むことを実感した。

- ・私たちの支援では、相談者の希望すべてを叶えるのは難しく、折り合いをつけるために何を大切にするか一緒に探ることが重要である。

- ・生きづらさを共感しながら折り合いをつけていく社会づくりの啓発がどこで担われるべきかを悩んでいる。死にたいという思いに至る前の社会の対応も含め、両面を考える必要があると感じた。

- ・自殺の背景には孤立があるため、社会全体で孤立を防ぐネットワークを構築することが重要である。

- ・縦割りの行政の課題を意識しつつ、学校や関係機関が連携し子どもと家庭を支援する仕組みを広げる必要性を感じた。ゲートキーパーが繋がりを深め、孤立を防ぐ仕組みをさらに進化させることが求められ

と思う。

- ・小学校では子どもや保護者の相談が多く、保健室が支援の重要な場となっている。相談を受けた際は全て受けとめて話を聞き、必要に応じて適切な機関や専門家に繋げることが大切だと実感した。

- ・つなぐシートも実際に使いながら改善し、より効果的なものにしていくことが重要だと思う。

- ・生徒だけでなく教職員のメンタルヘルスに気づき、管理職や産業医とも連携し対応する重要性を感じている。教職員向けのゲートキーパー研修が広まれば、教員が初期対応できる受け皿としての役割を果たせると期待している。

- ・子ども食堂やフードパントリーを運営の中、追い詰められた家庭の声を聞く場面も多く、ゲートキーパー研修の知識が非常に重要だと感じている。運営者やアウトリーチャーにも研修を広め、関係者全体で支援の質を向上させるべきである。

- ・行政支援をまとめた冊子の積極的な配布に賛同し、つなぐシートは、行政だけでなく学校や民間団体とも連携できる仕組みづくりが望ましい。

- ・監督署では主に仕事が原因となる精神疾患に関する労災相談や事業所へのメンタルヘルス対策指導をしている

- ・北区ではゲートキーパー研修を受けた人たちがどのように具体的な活動を行っているのか。

- ・昨年度のゲートキーパー研修では、一般の方 23 名、職員ではロールプレイを含む養成講座に 28 名、基礎的な研修には 211 名が受講した。現在は、ゲートキーパーの役割を知り、自身の立場で相談に対応する状況が中心であり、今年度は、活動中の悩みや課題へのフォローアップを含めた研修を進め、サポート体制の強化を目指している。

- ・孤立の解消が課題であり、特にマンションなど地域で孤立者へアプローチする難しさを感じている。

- ・ゲートキーパー研修で心の安定を支援する取り組みは重要である。司法書士も相談の重みにより疲弊するため、安心して対応できる環境整備は必要である。

- ・北区独自のゲートキーパー活動の構想や「つなぐシート」の活用方法について具体的な計画があれば教えていただきたい。

- ・自殺対策は孤立を防ぐ日常支援から難しいケース対応まで幅広く、ゲートキーパーは関係性の構築が重要である。本人の拒否が壁になる場合もあり、多様なネットワークと支援が必要である。

- ・自殺者特性の背景について、男性の 40 代・70 代や女性の 20 代・60 代・80 代の差異の理由を教えていただきたい。

- ・つなぐシートは手書き整理をしやすくする工夫が必要であると提案する。

- ・ゲートキーパー育成だけでなく市民をサポートし、話を聞き、つなげる仕組みや 6 ヶ月フォローを実行し、北区の自殺対策への貢献を目指す。
- ・学校は子供の自死ガイドラインの説明を徹底すべきである。
- ・自死は人権問題として捉えるべきであり、「自殺」ではなく「自死」と言葉を選ぶ重要性を提案する。
- ・相談者を適切な支援に繋げるには、距離や経済的課題など個別の問題を見極める必要がある。
- ・我々もネットワークを活用し、多角的な視点で支援することが重要であり、ゲートキーパー研修の意義を感じながら取り組んでいる。
- ・自殺理由が多岐にわたるため、各部署の対応可能な業務が分かる詳細資料や、一元管理部署があれば助かる。
- ・フローチャートを作成し、課題整理につなげることを提案する。
- ・昨年の協議会で多くの意見を考慮し、警察は現場対応を中心に、自殺企図者への対応に取り組んでいる。警察の役割は主に医療機関や相談機関へのつなぎであり、時には説得を通じてゲートキーパー的役割を果たすこともある。今後も最良の選択肢を模索していきたい。
- ・警察は自殺未遂対応が多く、特に 10 代・20 代の件数が目立つ。短期的対応が中心のため、自治体に一元的な相談窓口があると連携しやすく、安定した支援が可能になると感じる。
- ・死亡に至らないケースも多く対応しており、ゲートキーパー研修を一般の方に広げるのは有意義だと感じる。その後の継続フォローがあればさらに効果的である。
- ・「つなぐシート」の導入については、負担感や運用の課題があるため、スモールスタートで改善していくのが良い。
- ・自助・共助・公助の視点を意識し、セルフケア支援も含めた総合的な支援が必要だと感じた。
- ・北区では、ゲートキーパー活動は特別な資格や技術を求めず、身近な人の変化に気づくなど、各自が少しずつ取り組むことを目的としている。今後、研修を受けたゲートキーパー同士が支え合い、情報共有する場を計画したいと考えている。「つなぐシート」に関しては、関係機関との情報共有を目指しつつ、個人情報の取り扱いなど課題を検討しつつ、現場で必要なものから進めていきたい。
- ・教育委員会の参加がなく、現場と行政間の連携が不足している。
- ・宗教や哲学的視点を含む専門家の意見を取り入れることで、より多角的な議論が可能になる。
- ・情報共有のインフラ整備を進め、区全体で一貫した対応ができる体制を構築することが重要である。
- ・事務局や担当者が少人数で集まり、事業の目的や成果の評価方法などを明確化する場を設けることが重要である。

	・自助・共助・公助の視点やリスク因子を踏まえたテーマ設定を行い、議論を体系化し、将来的な計画の基盤としたい。 ・次回は、救急医療に造詣の深い委員を中心に、自殺企図者と関わる警察、消防からも情報提供してもらい、議論を進める形はどうだろうか。 ・自殺対策の本質は「追い込む要因」に目を向けることだと考えて、この会議を進めていきたい。
閉 会	